

研究種目：基盤研究（C）
 研究期間：2007～2009
 課題番号：19520426
 研究課題名（和文） 統語・意味・談話のインターフェイス研究：文断片や省略の言語間変異
 と言語獲得の諸相
 研究課題名（英文） A Study of Syntax, Semantics and Discourse Interface: Language
 Variability of Sentence Fragments and Ellipses, and Aspects of
 Language Acquisition
 研究代表者 稲田俊明（INADA TOSHIAKI）
 九州大学・大学院人文科学研究院・教授
 研究者番号：80108258

研究成果の概要（和文）：

本研究は、従来の普遍文法モデルに内在する問題点を洗い出し、それとは異なる言語機能モデルが必要であることを示した。また、従来のアプローチの問題点を克服できる新しい言語機能モデルを探索するために、豊かなインターフェイスを備え、言語多様性と変異可能性を原理的に説明できる言語獲得モデルの備えるべき特性を明らかにした。特に、言語の変異可能性を予測できる文法モデルを構築するために、各種のWH構文、焦点構文、照応と削除構文について、通言語的に調査した。

研究成果の概要（英文）：

This study explored an adequate model of the faculty of language (FL). We have pointed out the serious problems of the standard approach to the universal grammar (UG). We have investigated the conditions of the adequate model of the architecture of FL, which can account for the variability of the grammatical constructions as well as the uniformity. Specifically, we examined the cross-linguistic variability of WH-constructions and the elliptical constructions such as NP ellipses, VP deletion, Sluicing, etc. Based on these investigations, we clarified the conditions on the architecture of FL, which has a rich interface between the components of UG and can deal with the (restricted) variability of grammatical constructions available to each language.

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2007年度	1,700,000	510,000	2,210,000
2008年度	1,000,000	300,000	1,300,000
2009年度	800,000	240,000	1,040,000
年度			
年度			
総計	3,500,000	1,050,000	4,550,000

研究分野：人文学
科研費の分科・細目：言語学・英語学
キーワード：英語学

1. 研究開始当初の背景

生成文法では、人間の言語機能の特性を解明するため、言語の均一的特性と言語多様性を同時に説明することができる普遍文法モデルの構築を目指す研究が進展している。しかし、現在のところ実質的成果が見られる部分と、現在有望とされるアプローチや探索領域に問題が指摘されつつある部分がある。今後、通言語的研究や言語獲得研究など多面的調査・研究が求められ、原理とパラメータ仮説(P&P)の代案の構築に向けた理論的・実証的な研究が求められている。

言語理論研究の動向との関連で述べると、次のようになる。P&Pによる普遍文法研究の新たな展開であるミニマリスト・プログラムの基本命題は、「言語とは、感覚運動体系および概念・意図体系という言語運用体系を介して言語機能が他の認知体系と接するインターフェイスに課される判読可能性条件を満たす最適解である」あるいは「言語獲得に課される初期条件は、(i) 認知機構内で言語の体系がその外側の体系とのインターフェイスにおいて、その外側から課されるインターフェイス条件と、(ii) 生物学的計算体系の一般特性としての計算上の効率性により要請される経済性条件のみであり、(i) (ii) のいずれによっても説明されないような言語特性はみられない」というものである。こ

のような研究指針は、認知体系内で言語機能と接する音声・音韻構造、論理・意味概念構造、情報・談話構造等の特性を明らかにすると同時に、言語獲得機構の内在的的特性や機能を解明し、さらに、言語獲得機構と他の認知体系との相互作用のあり様を探究する研究を求めるものである。

このような観点から、本研究のインターフェイスの特性に関する課題の探求は、理論的意義が大きい。

2. 研究の目的

まず、言語機能の特性に関する従来の標準的なアプローチの問題点を、各種構文の通言語的調査によって明らかにする。そして、生成文法における普遍文法理論研究を進展させるため、成人文法と子供の文法の両方に通言語的に観察され、言語発生と言語使用において重要な役割を果たす現象、つまり文断片や省略等の統語形式、特有の意味解釈、談話的条件などを明らかにする。また、統語・意味・談話のインターフェイスの特性を明らかにする。最終的には、言語の普遍特性のみならず、各種構文の通言語的変異可能性をも原理的に説明することのできる言語機能モデルと言語獲得モデルを提案する。

3. 研究の方法

本研究課題の遂行の準備と研究体制は、研究代表者と分担者が長年にわたり共同研究を行っているため、すでに十分に整っ

ている。従って、これまでの共同研究を発展させる形で、下記の計画により本研究を遂行する。

(1) 代表者と分担者により、準備状況と研究計画の確認を行う。(2) 生成文法の普遍文法モデルにおける仮説群、インターフェイスの位置づけ等を点検し、言語の均一性と同時に予測される言語多様性が可能なモデルかどうかを点検する。(3) 本課題で扱う特殊構文の通言語的調査を、文献によって行う。並行して、照応現象についての同様の研究を行う。(4) 上記の事実の確認のため可能な限り、言語文化研究院の非常勤講師等のインフォーマントにより、事実調査を行う。(5) 国内外の研究者と意見交換を行う。(6) 英語と日本語について、子供の発話資料 (CHILDES, etc.) を利用した言語獲得過程の調査を行う。これと並行して、日本語の言語獲得調査を、保育園、幼稚園において行う。研究成果は、日本英語学会等で発表し、論文として公表する。また、福岡言語学会における講演会、九州大学総合言語運用研究センターにおけるシンポジウム等により、研究成果を他の研究者にも随時公開し、中間的成果について他者評価を受け、次年度以降の研究計画の参考にする。

4. 研究成果

(1) 従来型の普遍文法モデルにおける仮説群を整理し、その潜在的な問題点を検討した。

(2) その結果、言語機能に関する仮説のなかで、特にインターフェイス (統語-意味, 統語-談話, 音韻-意味, etc.) の特性に関する仮定について、重大な問題が隠されていることを明らかにした。

(3) 言語多様性に関わる事象として、焦点化と談話に係わる言語事象の統語形式と解釈、談話的制約を調査した。

特に、WH 構文と焦点化 (疑問文の簡略応答や、感嘆文に解釈される名詞表現と焦点化など)、疑問応答における文断片と焦点化について調査し、その普遍特性と変異可能性を明らかにした。また、削除や照応現象に関わる言語事象を通言語的に調査して、言語普遍性と同時に変異可能性を明らかにし、またその類型化に向けた研究を行った。

(4) 言語普遍性と同時に多様な変異可能性を説明することのできる言語機能の理論と言語獲得モデルが満たすべき条件を明らかにして、従来型モデルの問題点を克服するためには、豊かなインターフェイスを備えた言語機能のアーキテクチャーが必要であることを明らかにした。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計 9 件)

稲田俊明 (2010) 「疑問文の簡略応答と焦点化について」『文学研究』九州大学人文科学研究第 107 号, pp. 115-136.

稲田俊明 (2009) 「ことばの意味と法則をさぐる」大津由起雄編『はじめて学ぶ言語学』ミネルバ書房

今西典子 (2009) 「リレー連載：言語研究動向 16、発音されない構造に潜む不思議」『言語』38 卷 7 号、6-7.

今西典子 (2009) 「ことばとところ：形と意味の結びつきの不思議」『科学フォーラム』(特集ことばの科学) 300 号、21-27. 東京理科大学

今西典子 (2009) 「音形を欠く主要部名詞をもつ名詞表現について」『』8 号、79-86, 語学教育研究所

稲田俊明 (2008) 「日本語の母音融合に関する覚書」『文学研究』九州大学人文科学研究第 105 号, pp. 51-77.

今西典子 (2008) 「*Current Issues in Generative Grammar and Language Acquisition*, iii+157.

Poetica 70. (with Yukio Otsu)

稲田俊明 (2007) 「言語機能の特性と言語多様性」『言語多様性と言語獲得モデルの研究』

(九州大学言語学論集K U P L)

今西典子 (2007) 「古語の文法とニュートン・リングの先に向けて言語研究の世界」大津編『ことばの宇宙への旅立ち』ひつじ書房 111-156

〔学会発表〕(計2件)

今西典子 (2008) 招待講演「生成文法と言語獲得」専修大学シンポジウム「生成文法の可能性」2008年11月8日講演、専修大学

稲田俊明 (2010) 招待講演「ことばの謎を探る：隣接性条件と経済性」放送大学、2010年2月20日、放送大学福岡学習センター

〔図書〕(計0件)

〔産業財産権〕

○出願状況 (計0件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

○取得状況 (計0件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕

ホームページ等

(1) 研究代表者 稲田俊明

(INADA TOSHIAKI)

九州大学大学院・人文科学研究院・教授
研究者番号：80108258

(2) 研究分担者 今西典子

(IMANISHI NORIKO)

東京大学大学院・人文社会系研究科・教授
研究者番号：70111739

(3) 連携研究者

()

研究者番号：